



2018年12月4日

各 位

会社名 株式会社デ・ウェスタン・セラピ°テクス研究所
代表者名 代表取締役社長 日高 有一
(コード番号:4576)
問合せ先 取締役総務管理部長 川上 哲也
TEL 052-218-8785

緑内障・高眼圧症治療剤「WP-1303 (H-1129)」の 国内第Ⅲ相臨床試験登録のお知らせ

当社が創製した緑内障・高眼圧症治療剤「WP-1303 (H-1129)」につき、ライセンスアウト先のおかもと製薬株式会社（以下、「おかもと製薬」）が、一般財団法人日本医薬情報センターが運営する臨床試験情報を公開するためのウェブサイト「臨床試験情報」(<http://www.clinicaltrials.jp>)を通じ、国内第Ⅲ相臨床試験情報を本日公表したことをお知らせいたします。

おかもと製薬により、本公表内容に準じて第Ⅲ相臨床試験が開始されます。

おかもと製薬によって行われた国内後期第Ⅱ相臨床試験の結果、眼圧下降効果の用量反応性及び安全性を確認し、臨床推奨用量を決定しており、第Ⅲ相臨床試験に向けた準備が進められておりました。

本試験では、緑内障・高眼圧症患者を対象に本剤の有効性と安全性について検証いたします。

第Ⅲ相臨床試験が開始されますと、当社はおかもと製薬から契約に基づくマイルストーンを受領いたしますので、その際には再度お知らせいたします。

なお、本件による2018年12月期の業績に与える影響はありません。また、2018年7月26日公表の中期経営計画における開発計画の変更もありません。

WP-1303 (H-1129) について

プロテインキナーゼ阻害剤^(注1)を中心とする当社化合物ライブラリー^(注2)のリード化合物を基にして最適化された、緑内障・高眼圧症を適応症とする開発品です。

本剤は、各種プロテインキナーゼ^(注3)を阻害することにより、線維柱帯-シュレム管を介して主流出路からの房水流出を促進し眼圧を下降させることが示唆されております。

日本における権利は、2013年3月におかもと製薬にライセンスアウトし、その

後、臨床試験が進められ、2018年7月に国内後期第Ⅱ相臨床試験が良好な結果で終了いたしました。

以上

用語解説

(注1)阻害剤

生体内の様々な酵素分子に結合して、その酵素の活性を低下若しくは消失させる物質を指します。化学物質が特定の酵素の活性を低下若しくは消失させることにより、病気の治療薬として利用されることがあります。

(注2)化合物ライブラリー

化合物ライブラリーとは、当社が長年にわたり蓄積してきた新薬候補化合物のタネとなる化合物群です。これらの化合物の一つ一つが特徴的な性質を有しており、基礎研究や新薬候補化合物発見に利用されます。

(注3)プロテインキナーゼ

ATP(アデノシン三リン酸と言われ、体内で作られる高エネルギー化合物)等、生体においてエネルギーの元となる低分子物質等のリン酸基を、タンパク質分子に転移する(リン酸化)酵素です。一般にリン酸化を触媒する酵素をキナーゼと呼び、特にタンパク質をリン酸化するキナーゼをプロテインキナーゼと言います。